

農作物技術情報 第8号 水 稲

発行日 平成30年10月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

◆ 今年のイネ作りを振り返り、生産コストの低減に向けて総合的に栽培管理や技術内容の見直しを行いましょ。

1 本年の生育経過と作柄

今年の水稲の生育経過を振り返ると、まず育苗期の気温はおおむね平年を上回り、全般に病害発生も少なく、良苗が確保されました。県全体の移植盛期も平年並（5月17日頃）であり、各地域とも適期内に田植え作業は終了しました。

移植後も気温が高く、良好な気象条件で経過し、活着は概ね良好でした。東北北部が6月11日頃（平年より3日早い）に梅雨入りしたこともあり、6月中旬には気温・日照時間も平年を大きく下回りましたが、目標茎数（500本/㎡以上）は確保したところが多かったと思われます。

7月は好天に恵まれ、幼穂形成期は平年並（県全体(全品種込み)：7月12日（平年差+1日））、県全体の出穂盛期（50%出穂）は平年よりやや早め（県全体(全品種込み)：8月3日頃（平年差：-3日））となりました。

8月は高温予想の異常天候早期警戒情報が発令され、高温の時期もありましたが、低温の時期も交互に訪れたため、北部や東部の出穂時期は8月中旬まで長引き、登熟の進み具合も地域により差が生じました。

成熟期は、地域により大きく差がありましたが、県全体（全品種込み）では平年（9月19日頃）よりも2日程度早まりました。一方、長雨や台風襲来により刈取作業は思うように進まず、刈取盛期は平年（10月4日頃）よりも3日程度遅くなりました。

9月15日現在における岩手県の作柄概況（農林水産省東北農政局、平成30年9月28日公表）は、作況指数102（篩い目幅1.85mm）、10a当たり予想収量は547kg/10a（篩い目幅1.70mm）と見込まれています。

2 来年の作付けに向けて

今年の天候は、7月までは高温傾向、8月は極端な高温と低温の繰り返し、9月以降は台風や長雨といったように時期ごとに特徴的な気象経過をたどりました。水稲の生育も出穂までは平年よりも早く、成熟期も平年よりやや早く到達したようですが、登熟後半の長雨や台風などにより、稲刈りの時期を迎えても圃場状態が悪く、昨年同様、刈取作業が進みづらい年でした。

来年の水稲作付けに向けて、今年の栽培管理を振り返り、基本技術が励行できていたか、コスト低減の無駄はなかったか等について分析や検討を行いましょ。今年排水不良だった圃場に溝切りや排水溝など明渠堀作業を行うなど、機械作業が可能な地耐力を得られるよう作業計画を立てましょ。

3 稲作の低コスト栽培技術の導入に向けて

平成30年産の米価は、昨年に引き続き前年を上回って回復傾向を見せていますが、依然としてコスト低減に向けた努力は求められています。稲作コストの低減に向けては、「資材費」の低減が効果的

ですが、安易に必要な資材までも使用を控えると収量確保や良質米生産に悪影響を与えてしまいます。以下のような観点から総合的なコスト低減に努めましょう。

- ①作付面積の拡大（規模拡大）⇒ 10aあたり生産費の低減
- ②生産量の増加（収量増加）⇒ 60kgあたり生産費、生産物10,000円あたり生産費の低減
- ③販売単価の向上（有利販売）⇒ 生産物10,000円あたり生産費の低減

生産コストの低減手法については「低コスト稲作栽培技術マニュアル（平成29年3月、岩手県）」が作成され、いわてアグリベンチャーネットに掲載されています。是非一度、お手持ちのパソコンやスマートフォンから確認してみましょう。（掲載アドレス <http://i-agri.net/Index/gate007/001/7594>）

また各種のICT技術が農業分野に活用されてきており、県内でも導入に向けた取り組みが始まっています。県内外の先進事例などの動向に注目し、将来的な経営への活用などを今から考えてみましょう。

次号は11月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**農作業 ころのゆとりで
事故防止**

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。